



高校生が部活動で使用し、使わなくなったトレーニングウェアやシューズを出身地のバングラデシュ・ナルシンディへ送る「BUKATUアイテム復活プロジェクト」の中心メンバー。留学のため来日、現在は静岡市内で飲食店や服飾店を経営

### この人

する。40歳。

プロジェクトの発足にはどんな背景があるか。

「バングラデシュは経済成長が進む一方、貧富の差も広がっている。出身地も高級ホテルの真横にスラムがある状態。古着でも喜ばれ、故郷の役

### 不用になった運動用品をバングラデシュへ送る ニアズ・アハメドさん(静岡市駿河区)

に立ちたいと考えた」

— 今後の計画は。

「第1弾として、清水商高で回収した品物は、来年初めに計画している市バングラデシュ交流協会の訪問団に同行して、現地で手渡す予定になっている」

— バングラデシュの良いところは。

「人々が優しく温かいところ。日本人と似ていると思う。日本にいい印象を持つ人も多く、静岡とバングラデシュの交流を深めていきたい」

◇ 自身もスポーツが得意。学生時代はサッカーやバドミントンに熱中した。